

子宮鏡検査は不妊症、習慣性流産、貧血、過多月経、不整出血などの方に適した検査です。

子宮鏡は子宮内の観察に最も優れた検査法です。

当院の子宮鏡は直径3mmの軟性鏡のため子宮頸管の拡張が不要で、痛みもほとんどありません。

この検査により、

- ・ 粘膜下子宮筋腫
- ・ 子宮内膜ポリープ
- ・ 子宮内膜癒着(ゆちゃく)症
- ・ 子宮奇形

などがわかります。

不妊症、習慣性流産、貧血、過多月経、不整出血などの方がこの検査の対象になります。

【検査の時期】

月経終了後から月経10日目位までです。

排卵期周辺では、子宮内膜ポリープが存在していたとしても肥厚した正常内膜の中に埋没してしまい、内膜ポリープの判別が困難になります。

閉経後の方はいつでも可能です。

出血が多い時は血液で子宮の中が見えませないので、実施できません。

【検査の方法】

生理食塩水を子宮の中に流しながら、子宮鏡で中を観察します。

テレビ画面を一緒にご覧いただけますので、その場でご説明をいたします。

検査にかかる時間は1～3分位です。

食事の制限はありません。

検査後は、注入した生理食塩水のため水っぽくなることと、薄い血液が出る場合があります。多くは1～2日で止まります。

【注意事項】

感染予防のため抗生物質を3日間お飲み下さい。発熱・腹痛・出血などが

出現した場合は、受診して下さい。

検査当日は入浴・性交渉・運動はしないで下さい。家事や仕事・シャワーなどは可能です。

【その他】

子宮頸管が細い、あるいは蛇行などのため、子宮鏡が挿入できないことがあります。

このような場合には、ラミナリアという細い棒を挿入して1時間位してから再試行するとうまく挿入できることがあります。